

乃于金子委員長閉會ヲ宣ス

(午前十一時十分閉會)

林  
密  
院

拓殖省官制外十二件第一回審査委員會

昭和四年四月十三日(土曜日)本院事務所ニ於テ

開會

出席者

倉富 議長

平沼 副議長

審査委員長

金子 顧問官

審査委員

山川顧問官

松室顧問官

江木顧問官

田顧問官

荒井顧問官

石原顧問官

齋藤顧問官

闕席者

平山顧問官

國務大臣

田中内閣總理大臣  
兼外務大臣

説明員

前田法制局長官

黒崎法制局参事官

金森法制局参事官

村瀬法制局参事官

杉田法制局参事官

成毛内閣拓殖局長

北島内閣拓殖局書記官

郡山内閣拓殖局書記官

武富外務省通商局長

大橋外務書記官

潮 内務次官

長岡社會局長官

大野社會局部長

川西社會局書記官

八田鐵道次官

大江鐵道書記官

五十嵐鐵道書記官

二上書記官長

堀江書記官

武藤書記官

(午後一時四十分開會)

金子委員長開會ヲ宣ス

田中内閣總理大臣ヨリ拓殖省官制立案ノ趣旨及  
内容並之ニ伴フ關係法規ノ改正ニ付大体ノ説明ア  
リ

江木顧問官ヨリ朝鮮併合ノ趣旨、内鮮人ノ種族

關係及日鮮文化ノ沿革ヲ説キ朝鮮ヲ殖民地扱ヒ  
スルハ朝鮮統治ノ根本義ニ於テ甚ク穩當ナラスト  
斷ニ政府ノ所見如何ヲ質シ田中總理大臣トノ間ニ  
二三ノ問答アリ

前田法制局長官ヨリ省名ニ關シ説明スルトコロアリ  
江木顧問官ハ之ニ對シ更ニ適當ナル名稱ノ選擇ヲ  
希望ス

金子委員長ヨリ朝鮮併合ノ由來茲詔勅ヲ説キ英  
國ノ印度ニ對スル事例ヲ引キ拓殖省ノ名稱ニ付テ考  
慮ヲ求メ朝鮮ハ之ヲ他ト別扱トスルノ必要アル所以ヲ

説述ス之ニ對シ田中總理大臣ヨリ答辯アリタル後同  
委員長ハ更ニ朝鮮總督ノ統帥權ノ沿革ヲ叙ヘテ政  
府ノ考慮ニ資セリ

齋藤顧問官ハ本案ニ對シテハ大体反對ノ意見ナル  
旨ヲ告ケ政府ハ江木、金子兩顧問官ノ意見ニ賛同  
スルヤ又拓殖省ヨリ朝鮮ヲ除外スルノ意ナキヤラ問ヒ  
田中總理大臣ヨリ省名ニ付テハ之ヲ考慮スヘキモ朝  
鮮ノ除外ハ困難ナルヘキ旨ヲ答フ、次テ前田法制局  
長官ヨリ日本ノ輿論ハ新附地ノ利益ヲ代表スル機關  
ナキヲ遺憾トスル旨ヲ述ヘタルニ對シ金子委員長ハ

如斯意見ヲ吐クハ内地人ナリヤ朝鮮人ナリヤト亂シ同  
長官内地人ナル旨ヲ答フ

其ヨリ江本顧問官ト前田法制局長官トノ間ニ新省  
ノ分課ニ関シ問答アリタル後

金子委員長ハ質問終了ト認メ當局諸官ノ退席ヲ  
求ム

(大臣以下説明員退席)

各委員ヨリ意見ノ陳述アリタルモ本件ハ更ニ各自考  
究スルコトニ決シ

金子委員長閉會ヲ宣ス

(午後三時十分閉會)

植  
密  
院

拓殖省官制外十二件第二回審査委員會

昭和四年五月七日(大曜日)本院事務所

於開會

出席者

倉富 議長

平沼 副議長

審査委員長

金子 顧問官

審査委員

植  
密  
院

平山顧問官

山川顧問官

松室顧問官

江木顧問官

田顧問官

荒井顧問官

石原顧問官

齋藤顧問官

國務大臣

田中 内閣總理大臣  
兼外務大臣

小川鐵道大臣

望月内務大臣

説明員

前田法制局長官

黒崎法制局参事官

金森法制局参事官

村瀨法制局参事官

成毛内閣拓殖局長

北島内閣拓殖局書記官

郡山内閣拓殖局書記官

笹川内閣拓殖局書記官

武富外務省通商局長

大橋外務書記官

長岡社會局長官

川西社會局書記官

大江鐵道書記官

二上書記官長

村上書記官

堀江書記官

武藤書記官

(午後一時四十分開會)

金子委員長開會ヲ宣ス

前田法制局長官ヨリ委員ノ御意見ニ依リ省名ニ關シ  
政府ニ於テ拓務省海外省隔地省新興省興務省改  
成省直隸省直轄省新疆省等種々考案セルモ未タ  
恰好ノモノヲ見出ササル旨ヲ述ヘ江木顧問官ヨリ  
其ノ考案ニ係ル「新治省」ノ提示アリ又新省ノ分課  
ニ關スル意見ノ陳述アリ



齋藤顧問官ヨリ朝鮮ノ除外困難ナラハ現制ノ如ク總督府ノ官制上ニ「拓殖大臣ヲ經テナル文字ヲ挿入セサルノ方法ナキヤ」ヲ問ヒ前田法制局長官之ニ答フ

金子委員長ヨリ新省豫算ノ理由書ニハ拓殖大臣ハ朝鮮、臺灣總督<sup>等</sup>ヲ監督スル旨ノ記載アリヤヲ質シ且豫算會議當時朝鮮ヨリ各種ノ陳情ナカリシヤノ質問アリ前田法制局長官之ニ答フ

荒井顧問官ヨリ現制及新制ニ依ル朝鮮ノ銀行監督ニ關スル質問アリ次ニ朝鮮ニ於テハ司法ヲ行政官廳ヨリ獨立セシムルノ意ナキヤヲ問ヒ又本官制ヲ發布スルモ為ニ鮮人ノ動搖ヲ来シ統治上ニ影響ヲ及スノ虞ナキヤ之ニ對スル政府ノ所見如何ヲ質シ田中内閣總理大臣及前田法制局長官ヨリ之ニ答フ

江本顧問官ヨリ假令新省設置セラルルモ朝鮮ハ依然トシテ陛下ニ直隸スルモノナルコトヲ牢記セシムル為特ニ執務心得ヲ出シテ之ヲ明示スルノ考ナキヤノ問アリ之レニ對シ前田法制局長官ヨリ準則ヲ提示シテ誤ナキヲ期シタキ旨ヲ答フ

齋藤顧問官ヨリ本案ハ鮮人ニ種々誤解セララル  
慮アリ之レ官制ノ文字等ニ付テモ希望ヲ陳ヘタ  
ル次第ナル旨ヲ述フ

次テ金子委員長ヨリ明治二十三年以後ノ樞密顧  
問官ノ定員數開議定足數及國務大臣數ノ沿革ヲ  
述ヘ新省設置ノ曉若シ定足數十名ヲ以テ開議シ  
タルトキハ國務大臣ノ數十ナル為樞密院會議ハ  
内閣ノ言フ通りニ決セララルコトナルヘシ此ノ定員  
問題ハ大正九年ニモ議論アリシカ内閣ニ於テハ今  
後モ尚現行定員ヲ以テ差支ナレトノ考ヘナリヤ

此邊ノコトモ考慮セラレタキ旨陳述スル所アリ  
之ニ對シ田中内閣總理大臣ヨリ未タ兩者ノ定員ヲ  
比較シテ考ヘタルコトナキモ能ク研究スヘシトノ答  
辯アリ

金子委員長ハ大臣及説明員ノ退席ヲ求ム

(國務大臣及説明員退席、午後三時十分)

退席ニ臨ミ前田法制局長官ト江木顧問官トノ間ニ移  
植民ノ意義及取扱ニ關シテ問答アリ又金子委員長  
ヨリ明治十九年殖民省設置ノ議アリシ當時ノ議論  
ヲ紹介シ移住ト移植トハ全然相異スルコトノ説明

アリ  
右終テ倉富議長ヨリ省名案「弘務省」ノ提示アリ  
次テ各委員ヨリ本案ニ對スル意見ノ開陳アリ本案  
ハ既ニ豫算モ通過ニ且政府ハ確信ヲ以テ之カ實施  
ニ當ルト謂フ以上之ヲ阻止スルハ穩當ナラサルヲ以テ  
止ムナク之ヲ認ムルコト、但、省ノ名稱、分課、國務大  
臣ノ増加ニ伴フ樞密顧問官ノ定員増加及朝鮮總  
督府官制改正案中「拓殖大臣」由リ「ノ」文字ヲ削除  
スルコトニ關シテハ二上書記官長ヲレテ政府ト交渉セ  
シメタル上更ニ委員會ヲ開キテ協議スルコトニ決定

ス

金子委員長閉會ヲ宣ス

(午後五時三十分閉會)

拓務省官制外十一件第三回審査委員會

昭和四年五月二十三日(木曜日)本院事務所

ニ於テ開會

出席者

倉富議長

平沼副議長

審査委員長

金子顧問官

審査委員

村  
守  
院

平山顧問官

山川顧問官

松室顧問官

江木顧問官

田顧問官

荒井顧問官

石原顧問官

齋藤顧問官

二上書記官長

堀江書記官

武藤書記官

(午後一時三十分開會)

金子委員長開會ヲ宣ス

二上書記官長ヨリ左記ノ四項ニ關シ内閣ト交渉

シタル結果ヲ報告ス

一、省名

二、省内部局ノ組織

三、朝鮮總督府官制中改正ノ件

四、新省官制ノ制定ト樞密顧問ノ定員規定トノ  
關係

江木顧問官ヨリ省名ハ新疆省、疆務省、綏撫省等  
可ナラム 韓國皇帝ノ詔勅ニモアル言葉ナレハ「新政」  
省トスルモ亦可ナラスヤトノ意見ノ陳述アリ 荒井顧  
問官ヨリ疆務省ヲ可トセムトノ意見ヲ述ヘ平山、  
田西顧問官ヨリモ亦之ニ付意見ノ陳述アリ  
二上書記官長ヨリ疆務省ノ「疆」ノ字ハ文部省ノ漢  
字表ニハ無キ文字ナルコト及省名ノ翻譯ニ付テハ  
政府ニモ注意シ置キタル旨ヲ述フ

江木顧問官ヨリ政府ハ顧問官二名ヲ増員スルノ  
意ナリヤ否ヤ又之ヲ聲明スヘキヤヲ質シ二上書記  
官長政府ハ之ヲ聲明スヘク之ヲ審査報告ニ記載  
セラルルモ苦ミカラスト述ヘタル旨ヲ答ヘ農林、商  
工西省分離ノトキノ報告書ヲ朗讀ス  
次テ協議ノ結果省名ハ政府案ノ「拓務省」ヲ認  
メ報告書ノ作成ハ委員長ト書記官長トニ一任  
スルコトニ決シ新御諮詢案下付アレハ直ニ電  
話ニテ打合せ處理スルコトヲ申合ス  
金子委員長閉會ヲ宣ス

(午後二時三十分開會)

文部省官制中改正ノ件外一件審査委員會

昭和四年六月十四日(金曜日)本院事務所

ニ於テ開會

出席者

倉富議長

平沼副議長

審査委員長

山川顧問官

審査委員